

# おお大勝利

平成 27 年度山東サッカー一部報第 6 号 (6 月 1 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 県総体鶴南に勝利しベスト8

5 月 30 日 (土) 31 日 (日) 酒田市・庄内町にて県総体の第一ラウンドが行われました。山東はシード校のため、31 日が初戦。**抽選にて山東の山に来たのが、新庄北と鶴岡南**。いずれも進学校大会に出場している高校であり、この山は初戦も二試合目も進学校対決が実現<sup>1</sup>。新北は、去年まで Y1 にいて昨年度選手権県予選準優勝の新庄東を地区大会で破り、最北地区 1 位で県大会に臨むチーム。2 年前だったか、サッカーへの情熱とサッカー偏差値を兼ね備えた I 山先生が酒東から新北に赴任し、瞬く間にチーム力を向上させた<sup>2</sup>。それゆえ、新北は古豪ですが新興勢力の趣がある。対する鶴南は山東関係者にとって言わずもがなの存在。**昨年度は県総体一回戦で屈辱的な敗戦<sup>3</sup>を喫した因縁ある相手**。そして、県リーグ戦でも同じリーグ (Y2B) に属し、鎬を削った相手。実は、私が高校時代も県総体で 3 年連続鶴南と対戦している<sup>4</sup>。ご縁があると言いましょか。実は、今年から県高体連サッカー専門部の専門委員長を仰せつかっており、理事会における県総体の抽選を見届けた<sup>5</sup>のですが、その際「ここの番号 (の抽選札) を鶴南引くだらうな～」と思っておりましたら、案の定、田川地区の地区理事 (not 鶴南顧問) はそこを引き当てた。

そして、山東の山の会場は酒田光陵高校。もうこの部報を読む方でこの因縁を理解している方は少なくなってきたでしょうが、3 年前の県総体でも山東は酒田光陵で戦っている<sup>6</sup>。あのときは勝つには勝ったが、本当にハラハラさせられた。なので、このピッチだと良いプレーできそう (してくれそう) といった、予感めいたものは皆無。一回戦上記 2 チームの対戦は、鶴南が地力を発揮して 2 対 0 で勝利。ディフェンダーがアンラッキーな形で一発退場となるなど新北にとって悔しい試合展開でしたが、**鶴南の攻撃は予想通り華麗**でした。湯野浜温泉のホテル満光園さんに前泊し、ゆっくりと翌日を迎える。

31 日は夜中降雨があった影響で、道路が濡れている。30 日の光陵グラウンドは砂埃がひどく、また、乾燥して硬い状態なのでボールが弾みすぎて収まらず、良いコンディションとは言えなかった。この降雨により、適度に湿ったピッチ状況となり、良い試合ができそうな予感がする。**清野 OB 会名誉会長 (総監督)、岸 OB 会会長、後藤報道局長**がいらっ

<sup>1</sup> その隣の日大山形の山も米沢興譲館と酒田東の対戦で、進学校対決。日大山形の Y 作監督が、「日大から山東まで、この二つの山は進学校ばかりだ」と盛んに仰っていました……。

<sup>2</sup> ちなみに、その I 山先生は、今年度より高体連の技術委員長です。

<sup>3</sup> 単なる敗戦にとどまらず、まさにぐうの音も出ない敗戦 (完敗) でした。

<sup>4</sup> そのうち一回戦で当たったのは高校 1 年生の時のみ。せりかわ整骨院の芹川先生がキャプテンの時でした (その試合、私はユニフォームをもらいましたが、先発はしませんでした)。2 年、3 年のときは準々決勝あたりで当たったと思います (敗れたのは 1 年時のみ)。

<sup>5</sup> 実際に抽選を引くのは、各地区の地区理事。村山地区の地区理事は注 1 の Y 作先生です。

<sup>6</sup> 山形東サッカーOB会 HP の平成 24 年度部報第 6 号をご覧ください。

しゃり、後輩の活躍を楽しみにして下さる。また、**GKコーキ斎藤雄さん、せりかわ整骨院所属の志田さん**がトレーナーとして酒田まで来て下さる。ありがたすぎる。学校からは、**応援團の男女25名ほどと顧問の先生、そして菅間校長**がいらっしゃる。もちろん**大人数の保護者の方**、そして**若手OB・OG**の姿も遠巻きにも確認できる。役者は揃った。あとは選手が頑張るだけ。

11:00 試合が始まると、クリアが短くなるのと、相手のドリブルを取りきれないので、崩されているわけでもないのにシンプルに押される時間が続く。入りは決して良くない。序盤の悪い時間を耐えていると、徐々に鶴南側のピッチにボールを運べるようになってきて、CKを得たりしている。**胃腸炎により吐き気を催しながら気丈にも？ピッチに立ったCB シャモジ**がボレーシュートを放つなど、少しずつ盛り返しつつあった前半の中盤、ムンタリがドリブルで切り込み倒されFK獲得。そのFKは結局ゴールにつながりませんが、相手のエースMFがそのプレーで警告を与えられる。「それ以降、警告もらった選手は当然として、鶴南側はムンタリに強く行けなくなった。試合を決定づけたビッグプレーだったと思います。」などと、**監督も気づかぬ試合の潮目を試合後に指摘して下さったのは、新北のI山先生**。その後、右から左へボールがつながり、山東のシュートが何回か連続した後のこぼれ球を**2年ススキ**が詰めて、山東先制。どっちつかずの展開だっただけに、得点はうれしい。そして程なくして、鶴南側の左の深い位置（鶴南側から見たら右の深い位置）でFKを得る。その前のFKでは、鶴南のMF・DFが全員ゴール前に引いたために、前方にドリブル等で進入するスペースがあったにもかかわらず、訳のわからないキックにより、まったく鶴南ゴールに迫れなかった<sup>7</sup>。今回は、壁となった選手以外の鶴南の選手が全員山東の選手にマンマークでついたため、ファーサイドから走る山東の選手に合わせ鶴南の選手もみなファーサイドに位置。「これはチャンスだ、ニアサイドががら空きだ。しかし、それに気づいて工夫できるかどうか（多分できないだろう）」とやや悲観的に戦況を眺めていると、先程は訳のわからないキックをした**カツミ**が、今度は低空で矢のようなボールをニアサイドに送る。それを**ムンタリ**がスライディングにてダイレクトで合わせ、追加点ゲット。いや～、**こうした状況状況に合わせた選手の工夫が見たいんです**。自チームながら、素晴らしい追加点でした。前半は鶴南に大きな決定機を与えず、理想的な形でハーフタイムを迎える。

後半も、受けに回らず積極的にいくことを確認して選手を送り出す。すると、開始早々ディフェンダーからのアバウトなパス？を受けたFWが抜け出しヘディングシュート。それがバーに当たり跳ね返ったのを主将タイチが詰め、後半開始45秒で3点目を得る。この得点は大きかった。そして全く同じ形からPKを獲得し、それを決め、4点目ゲット。正直、まったく実力差が反映されていないスコアですが、それが**《スキルの差をスコアの差にしない粘り強い山東》<sup>8</sup>**なのです。ゲリバラーシャモジを交代させた後、故障明けのムンタリをいつ代えようか（どう代えようか）、タツルをFWにさせたいけど（シャモジなき今）CBを誰にしようか、などと、**監督が「この試合、勝負あった」と浮ついていたのがいけなかった**。FWを交代するなどして本来の布陣で攻勢をかける鶴南の前に、プレ

<sup>7</sup> もちろんFKはキッカーが連続して2回ボールを触れないので、キッカーがいきなりドリブルを開始することはできませんが、誰かがボールを受ければ進入できた。

<sup>8</sup> 私はこの部報にて山東のDNAを繰り返しこのように表現しています。過去、IHにせよ選手権にせよ、山東が全国大会に出場した時、必ずしも県内で実力No.1ではなかったのです。山東の上に行くチームを本番力で凌駕してきた伝統があるのです。

スガはがされ、サイド攻撃から鮮やかに一点を献上。ここで目が覚めたとばかりに締めることができればまだ良かったのですが、その後も鶴南の猛攻を受け、すぐ追加点を許す。この2点目は鶴南にとって本当の意味で意気上がったことでしょう。「行ける、このまま行けば行ける」と。焦りましたし、鶴南の実力を感じました。**そんなマスイ雰囲気絶ったのが、我々が GK のサブロー。齋藤 GK コーチと繰り返し練習している上方向のボールをバー上へと弾くビッグフレイで、3点目を与えず。**あれが入っていたら、本当に危なかったことでしょう。その後は何とかしのぎ、結局4対2で勝利。最後、後味の悪い勝利となりましたが、鶴南に2点差つけて勝つこと自体、運に恵まれていた。**これで、昨年一回戦負けの屈辱を雪げました。多くの卒業生（大学一年生）が応援に来てくれましたが、同じ思いだったでしょう。現役選手には「県総体の借りは県総体でしか返せない（から頑張ろう）」と伝えてありましたが、卒業生の思いにも叶う勝利となりました。**

ただ、①後半、複数人でボールを奪いに行くも奪いきれなかったところから DF ラインが混乱することとなったし、②しっかり声を出して連携しないところから「お見合い」が生まれ、相手にボールをプレゼントするプレーにつながりました。また、③前後半通じて、ヘディングで被るプレー<sup>9</sup>や、誰もヘディングせずボールが地面に落ちるプレーが多々ありました。④ゴール前でファーサイドに回る選手をつかみきれない（ボールウォッチャーになってしまい、ボールから離れる動き＝pull awayする選手を視界の外に置いてしまう）シーンも多々見受けられました。⑤終了間際、鶴南が攻勢に出ていた時間も、後方に人数が余っていない鶴南ディフェンスラインを前に、たびたび数的優位または同数になりチャンスが到来しましたが、トラップ・シュート・パスいずれも正確性を欠き、追加点を奪えませんでした。すなわち、**課題だらけの勝利でしたし、2失点し、それが余計に露わになったとも言えます。勝って兜の・・・ですね。**応援ありがとうございました。また、保護者会より栄養補助食品の差し入れいただきました。ありがとうございました。

さあ、いよいよ**次戦の相手は、優勝候補筆頭の日大山形**です。今年度、公式戦無敗のチームです。新チームになってから、で考えると、冬に行われた東北新人で青森山田に惜敗した一敗しかしていないとも言える。山東に立ちはだかる高い壁ですが、インターハイ出場を目標にするならば、ビビっている場合ではないはず。応援よろしく願いいたします。

**6月5日（金）県総体準々決勝 VS 日大山形 @ 小真木原運動公園陸上競技場 11:00～**  
**勝つと**

**6月6日（土）県総体準決勝 VS 米沢中央と山形中央の勝者 @ 同会場 11:00～**  
**勝つと**

**6月7日（土）県総体決勝 VS 羽黒・城北・鶴東・新東の勝者 @ 同会場 13:00～**

**6日負けると**

**6月7日（土）県総体三位決定戦（東北選手権第三代表決定戦） @ 同会場 11:00～**

---

<sup>9</sup> 「被る」とは、複数の選手がダブることも意味しますが、「ヘディングを被る/GKがキャッチを被る」とは、ボールを後方に逸らすことを意味します。